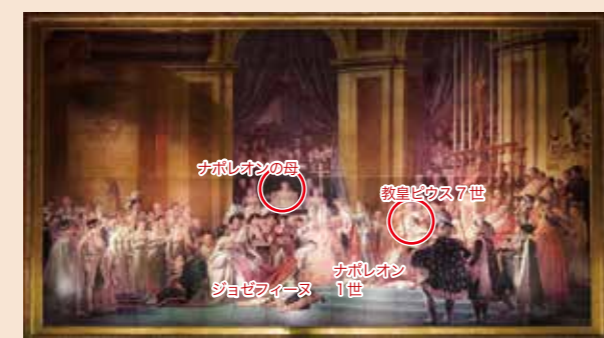




7 ナポレオンは英雄なのか

「皇帝ナポレオン1世と皇后ジョゼフィーヌの戴冠」

注文主 ナポレオン1世
 フランスの皇帝の囁れ姿をみたい
 作者：ジャック＝ルイ・ダヴィッド
 制作年：1805-7年 フランス



国民投票で皇帝の地位にのぼり詰めたナポレオン1世が、1804年12月2日、パリのノートル＝ダム寺院で行なわれた自身の戴冠式を、不滅のものとするために描かせました。本来は教皇がナポレオンに冠を授ける式典ですが、権力を誇示するためナポレオンは自ら冠をかぶりしました。しかし、その様子が描かれると挑発的に見えるという理由から、妻ジョゼフィーヌに冠を授ける構図に変更して描かれました。

作曲家ベートーヴェンは、フランス革命を定着させたナポレオンの姿に心を打たれ、ナポレオンの名前を冠した「ボナパルト」というタイトルで交響曲第3番の作曲を進めていました。しかし、ナポレオンが皇帝になったことに落胆し、タイトルを抹消。今では交響曲第3番は「英雄(エロイカ)」の名で親しまれています。

B1 近代 市民が主役の時代の到来

19世紀のヨーロッパでは、市民革命と工業化の進展を通して中産階級が成長し、市民社会が成立しました。この時代には、都市を中心に、市民の生活において労働と私生活とが分離され、余暇や娯楽が定着していきました。芸術や科学など文化的活動も、市民たちのために行われるようになりました。

8 自由をつかみ取れ！

「民衆を導く自由の女神」

作者の意志で制作
 ウジェーヌ・ドラクロワ
 絵画を描いて革命に参加したい
 制作年：1830年 フランス

フランス7月革命(1830年)を描いた絵画です。シャルル10世の圧政に対して、パリ市民が7月27日に決起し「栄光の3日間」といわれる戦闘が起こり、国王側が敗北しました。「自由」の擬人像が三色旗を掲げ、革命の象徴であるフリジア帽をかぶり、少年や労働者を率えています。



9 休日の楽しみ

「ムーラン・ド・ラ・ギャレット」

作者の意志で制作
 オーギュスト・ルノワール
 幸せで楽しい世界を描きたい
 制作年：1876年 フランス



ムーラン・ド・ラ・ギャレットは、当時モンマルトルで評判のお店の名前です。上流階級の特権だった余暇や娯楽などが大衆化したのが、この時代です。日曜、祝祭日におしゃれをしてダンスをしたり、おしゃべりを楽しんだりする人々が生き生きと描かれています。

帽子の種類から、様々な階級の人々が集っていることがわかります。



10 たくましく生きる農民

「落ち穂拾い」

作者の意志で制作
 ジャン＝フランソワ・ミレー
 たくましい農民たちの姿を描きたい
 制作年：1857年 フランス



日没のみ、土地を持たない女性や子どもが許された仕事、それが落ち穂拾いです。貧しくとも懸命に生き抜いている人々を主役とした作品が制作されました。

なぜ近代の絵画は、これまでの時代に比べて小さなサイズが多いのでしょうか？

「市民が絵画を愛するようになったからです。教会や宮廷の大きな絵画のサイズが小さくなったからです。」

1F 現代 不安と希望を表現する芸術家たち

私たちは、産業や科学技術の発達により物質的な豊かさを手に入れることができました。その一方で、紛争や環境破壊が続き、よりどころとする価値観が不安定な社会に生きています。芸術家たちは、そうした現代社会に対する不安や怒り、またそれを乗り越える希望を表現しています。

11 NO MORE WAR

「ゲルニカ」

作者の意志で制作
 パブロ・ピカソ
 戦争の悲惨さや悲しみを訴えたい
 制作年：1937年 スペイン



1937年4月26日、内戦が続くスペインで、北部の古都ゲルニカが、人民戦線政府に対して反乱をおこしたフランコ将軍を支援するナチス・ドイツの空軍から史上初の無差別爆撃を受けました。この事件にスペイン人のピカソは憤りを感じ、わずか1ヶ月で「ゲルニカ」を完成させました。色彩が消え、白黒のみが残った世界を描いています。ピカソはスペインに本当の自由が戻ったら、「ゲルニカ」を母国に返したいと願い、1981年に返還されました。「ゲルニカ」がスペインにあるということは、スペインが自由であるという象徴でもあるのです。

悲惨な情景を描いた「ゲルニカ」の中に、「希望」と「再生」を意味するアネモネの花が描かれています。探してみよう！
 ちなみに、赤いアネモネはキリストや殉教者を意味することもあります。



12 どれが本当のマリリンか

「マリリンの二連画」

作者の意志で制作
 アンディ・ウォーホル
 メディアとは何か、問いかけたい
 制作年：1962年 アメリカ



ウォーホルは、女優マリリン・モンローが自殺した直後にこのシリーズの制作を開始しました。マリリンのイメージを繰り返すことによって、メディアが作りあげたであろう虚構のマリリン像が浮かび上がってきます。個々が問題意識を持つことにより、物事の本質を見極めるよう警告しているのかもしれない。

価値観が多様化し、20世紀に入るとフォーヴィスム、キュビズム、ダダイスム、シュルレアリスムなど、様々な画派が現れました。

Arttribute

西洋美術において、ある人物や事象を特定する手がかりとして、慣習的に添えられて描かれているもの。

！作品の中から探してみよう



バラ
 キリスト教では、よく聖母マリアと共に描かれます。ギリシア・ローマ神話では愛と美の女神ヴィーナスの花です。



頭がい骨
 死、ヴァニタス(人生の虚しさ)を象徴しています。



犬
 「忠実」を表わしています。



ユリ
 「純潔」を表わし、よく「受胎告知」のシーンで天使ガブリエルが持っている花です。

HiCAM ハイカム

High School Art Museum
 Hi, Come on!

監修：鳴門教育大学 大学院教授 梅津 正美
 協力：高校教諭 亀井 幸子
 制作：大塚国際美術館 安東 七瀬 井上 千鶴

2011年4月
 ※写真は、大塚国際美術館の展示作品です。

絵画は、皆さんが歴史の知識を得たり、考え方を身につけるための貴重な学習材になります。当館は、作品を大きく6つの時代に分けて展示しています。学校で学ぶ「世界史」の知識と照らし合わせながら、絵画を通して各時代における社会の特色や歴史の大きな変化をつかんでみてください。

B3 古代 文化の中心となったギリシア・ローマ

ギリシアの文化は、ポリス（都市国家）での生活を基盤に、政治と軍事に携わる調和と均整のとれた理想的な人間像を追求しました。これに対して、ローマでは、都市国家から帝国へと領域が拡大するなかで、水道や道路の建設など実用的な文化が発達し、市民の生活を支えました。

人間味あふれるギリシア神話

ギリシアのオリンポスに住む12神が中心の神々と英雄の物語。恋多き全能の神ゼウスや、愛と美の女神アフロディテなどの人間らしい神々や、ペルセウス、ヘラクレスなどの英雄たちが登場します。



キリスト教が広まるにつれ、ギリシア神話の芸術作品は作られなくなりますが、ルネサンスの時代になると、再び芸術家のイメージの源になりました。

1 この作品のヒーローは誰？ 「アレクサンダー・モザイク」

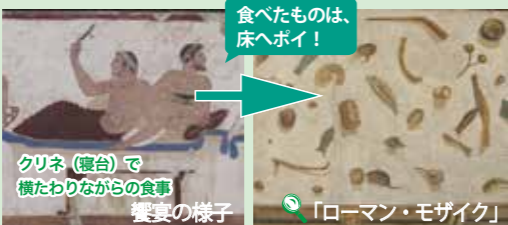


注文主 ポンペイのお金持ち ファウヌス邸の住人
 邸宅に豪華で立派なモザイク画を
 作者：不詳
 制作年：前100年頃 イタリア

イタリアのポンペイから出土した床モザイク。アレクサンドロス大王とダレイオス3世の激しい戦闘場面です。攻め込むアレクサンドロス大王の軍より、敗れるペルシア軍が画面のほとんどを占めています。

ローマ人セレブのゴージャスな生活

皇帝は権力を示すため、コインに肖像画を刻みました。裕福な人々は、それに倣って自分の肖像画を描かせました。



パン屋の隣から出土したので、「パン屋の夫妻」と呼ばれていますが、法律家の夫妻ともいわれています。

ローマ帝国は交通網が発達していたため、各地から木の実や魚介類など色々なものが集まってきました。珍味を集め宴会を開き、贅沢な生活をしていました。右のモザイク画にはウニも描かれています。探してみてください！

B3 中世 信仰と教会の時代

中世の西ヨーロッパでは、カトリック教会が、民衆へのキリスト教の布教を進め、人々の信仰のよりどころになっていきました。11世紀おわりから13世紀はじめにかけて、カトリック教会の頂点に立つ教皇の力は絶頂に達し、しばしば皇帝や国王を屈服させました。

2 絵画で読む聖書 「スクロヴェーニ礼拝堂壁画」



注文主 パドヴァの裕福な商人 エンリコ・スクロヴェーニ
 教会を建てて罪を償わなくては
 作者：ジョット・ディ・ボンドーネ
 制作年：1304-5年 イタリア

エンリコ・スクロヴェーニの父親は、当時キリスト教会が禁止していた高利貸でした。その罪を償うため礼拝堂が建てられたといわれています。作者のジョットは、積極的に写実性を取り入れ、表情豊かな人物、立体的な空間を描き、ルネサンスの先駆けとなりました。

「最後の審判」の時にイエスが現れ、右側に正しき者が導かれることから「right」に「正義」という意味があります。「新約聖書」の「マタイによる福音書」では、「羊を右に、ヤギを左に置く」と書かれています。キリスト教で、ヤギは地獄へ落ちる人を示しています。



ダンテの『神曲』の地獄篇に父親は登場しているんだよ。

B2 ルネサンス 人間の再生をめざして

ルネサンスは、フランス語で「再生」を意味します。これは、中世のカトリック教会の影響を強く受けた生活や文化を見直し、古代ギリシア・ローマの文化を理想として、人間の自由で個性的な生き方や合理的なものの考え方を追求する文化運動でした。

3 芸術の春へようこそ 「春 (ラ・プリマヴェーラ)」



注文主 画家のパトロン 大富豪メディチ家
 メディチ家のためにルネサンスの息吹を感じる作品がほしい
 作者：サンドロ・ボッティチェッリ
 制作年：1478年頃 イタリア

古代ギリシア文化で多用されていたアフロディテ（ヴィーナス）や三美神が、再び登場。ギリシアの神々が春を謳歌している場面は、美しい花々が咲きほこっています。それらは、イタリアのフィレンツェで確認できるものばかりです。つまり、神々が踊るこの舞台は、ルネサンスの中心地フィレンツェであるという暗示でもあるのです。

登場人物の中でフィレンツェを暗示している神は誰でしょう？
 ヒント：フィレンツェの意味は「花の都」だよ。

4 いにしえ 古の偉人 大集合 「アテネの学堂」

注文主 教皇ユリウス2世
 ルネサンスの精神性を象徴した内装にしてほしい
 作者：ラファエッロ・サンツィオ
 制作年：1509-10年 ヴァチカン

古代ギリシアの哲学者プラトンや数学者ピュタゴラスなどが時を超え、一堂に会している学舎。英知を重んじるイタリア・ルネサンスの精神を表現したラファエッロの傑作の一つです。

作者のラファエッロ(⑦)は黒いベレー帽を被った青年。探してみてください。



- ①プラトン ②アリストテレス
- ③ソクラテス ④アレクサンドロス大王
- ⑤ピュタゴラス ⑥ユークリッド (ブランチ)
- ⑦ラファエッロの自画像

プラトンのモデルとして描かれたルネサンス時代の芸術家は誰？

5 ヒューマンドラマの一瞬 「最後の晩餐」

注文主 ミラノ公主 ルドヴィーゴ・スフォルツァ

高名なレオナルドに描いてほしい
 作者：レオナルド・ダ・ヴィンチ
 制作年：1495-98年 イタリア



イエスが捕らえられる前に弟子たちと最後の食事をしている場面。臨場感あふれる画面を描くために、レオナルドは人間の表情と仕草の研究を重ねました。そして、神々しい光輪や光背を持つイエスではなく、人間らしいイエスが誕生したのです。

最後の晩餐のメニューは？

魚はイエスを象徴するため、「最後の晩餐」に古くから描かれていました。レオナルドの絵画にもパンやワインの他に、魚も描かれています。



B2 バロック 王と貴族たちがささえた文化

17～18世紀には、絶対君主である王の力を反映した豪華で華麗な建築や芸術が発達しました。宮廷では、王族や貴族が集い舞踏会や音楽会が盛んに開かれ、この時代の文化活動の中心の場となりました。バロックとは、「ゆがんだ真珠」の意味で、この時代の文化様式を表しています。

6 フランスの太陽王 「ルイ14世の肖像」

注文主 太陽王 ルイ14世
 作者：イェサント・リゴー
 制作年：1701年 フランス

「朕は国家なり」という言葉を残したルイ14世が、高いハイヒールを履き、足が美しく見えるポーズをとっています。ブルボン家のユリを刺繍した豪華なマントをまとい、右手には笏を持ち、王の権威を示しています。ルイ14世はバロック建築の傑作、ヴェルサイユ宮殿を20年以上の歳月をかけて建設しました。



少年期に踊ったバレエの役柄がギリシア神話の太陽神アポロンであったことから、太陽王と呼ばれました。